

「神の恵みの不条理 “パラドックス”」

主任牧師：重田 稔仁

<メッセージ>

<十字架で死なれたキリストをめぐるパラドックス>

世俗的評価 ☆キリストは王になり損ねた革命家

キリスト教会の理解 ☆キリストは罪と死に打ち勝った勝利者

ヤコブの人生には、今、申し上げた筋の通らない神の恵みの不条理、パラドックスが証しされています。神の恵みの不条理、いわゆるパラドックスを受け入れるとき、私たちの世界観、人生観は神のみ心を明らかにした聖書の教えに沿って変えられていきます。わかりやすい言葉で言うと人が変わるというやつです。どんな風に変えられるのか、一言で言うと“自己中心的で他者と争う人から神を中心として他者と平和に生きる人”へと変えられていきます。

この変革：トランスフォーメーションを見せてくれているのが今朝、私たちが紐解く聖書中に登場するヤコブです。

一緒にヤコブの物語を見てみましょう。

朗読 創世記 32:23～33

「その夜、ヤコブは起きて、二人の妻と二人の側女、それに十一人の子供を連れてヤボクの渡しを渡った。

ヤコブは独り後に残った。そのとき、何者かが夜明けまでヤコブと格闘した。ところが、その人はヤコブに勝てないとみて、ヤコブの腿の関節を打ったので、格闘をしているうちに腿の関節がはずれた。「もう去らせてくれ。夜が明けてしまうから」とその人は言ったが、ヤコブは答えた。「いいえ、祝福して下さるまでは離しません。」「お前の名は何というのか」とその人が尋ね、「ヤコブです」と答えると、その人は言った。「お前の名はもうヤコブではなく、これからはイスラエルと呼ばれる。お前は神と人と闘って勝ったからだ。」「どうか、あなたのお名前を教えてください」とヤコブが尋ねると、

「どうして、わたしの名を尋ねるのか」と言って、ヤコブをその場で祝福した。ヤコブは、「わたしは顔と顔とを合わせて神を見たのに、なお生きている」と言って、その場所

をペヌエル（神の顔）と名付けた。ヤコブがペヌエルを過ぎたとき、太陽は彼の上に昇った。ヤコブは腿を痛めて足を引きずっていた。こういうわけで、イスラエルの人々は今でも腿の関節の上にある腰の筋を食べない。かの人がヤコブの腿の関節、つまり腰の筋のところを打ったからである。」 創世記 32:23, 25-33

本論

先程、ヤコブの人生には神の恵みのパラドックスが明らかにされていると申しあげましたが。ヤコブとはどのような人物だったのか。今、朗読した聖書のテキストによると…彼は、とにかく石橋を叩いても渡らない程、慎重な人間でした。

しかもその慎重さは全て我が身可愛いさのために徹底していました。その姿が創世記 32 章に詳細に記されています。ヤコブは宿敵兄エサウとの再会を前にして、こともあろうか自分の僕たちのみならず家族をも先導させて自分はしんがりを進みいざとなったら逃げようと身構えていました。そんなヤコブが1人で夜を過ごしていたとき神のみ使いが現れ、ヤコブと相撲を取ったのです。しかしみ使いはヤコブに勝てないとみるやヤコブの腿を関節を打ち関節を外してしまったのですが、ヤコブは神の祝福を得ようと負けを認めなかったのです。それがヤコブという人物です。ちなみに彼が犯した他のあさましい仕業を紹介すると。

☆ヤコブは母リベカの入知恵で兄エサウに変装して父イサクから兄の祝福を奪った男です。創世記 27:1~40

☆ヤコブは叔父ラバンの雇い人として叔父の羊を飼いながら、その羊の中で健康で繁殖力の強い羊を自分の所有として選別した男です。創世記 30 章

今、申し上げたことをまとめると

ヤコブは自己中心的な人物！

これがヤコブの人物像ですが。

そんなヤコブが人生最大の危機に陥ったとき体験したのが神の恵みの不条理、パラドックスです。

ヤコブは神との闘いでその腿の関節を打たれ、関節を外されたにも関わらず、神に勝利したとみなされ、神の祝福に預かったと創世記 32 章に記されています。

これっておかしな話だと思いませんか。何がおかしいかと言うと…

ヤコブは神に打たれて腿の関節が外れても参った！とは言わなかった…ただそれだけのことで彼が神に勝ったとは言えないでしょう。（ボクシングの試合で負傷した選手はテク

ニカルノックアウトを宣告されて負けになります。)

しかし神は、ヤコブが格闘不能に陥ったにもかかわらず、ヤコブは神に勝利した！と宣言したのです。神はヤコブのしつこさに根負けしたのでしょうか。

だとするなら、創世記 32 章の物語のメインテーマは、神の祝福は執念深く求める者たち
にのみ与えられる！となりますが。創世記 32 章は、そんなことメッセージしていません。

創世記 32 章がメッセージしていること

それは、人は、神の恵みの不条理を体験することなしに神の憐み、慈しみを知る事ができないということです。

<神の恵みの不条理とは何か？>

神の不条理とは…

神は人を救うために、人をご自身の慈しみに引き寄せるために人に敗北してくださる。

全知全能の神が人に敗北する！

ヤコブはこの神の恵みの不条理を体験したのです。

これは何を物語っているか？ それは…

神は力ではなく憐みによって人を救うお方だということです。神は恐怖ではなく、平和によって人を支配する方だということです。

みなさん、此処までお話しすると、

私たちが信頼する主イエスの恵みも不条理、パラドックスそのものだとお気づきになられたのではないのでしょうか。

神であるイエスが人間の手にかかって十字架にかかって死なれた。すなわち人間の悪意、謀略に屈した。しかしそれは、私たちが、主イエスの十字架の死を通じて神の救いに与るための神の憐みの故だったということです。

神の独り子イエスの敗北によって私達は神の祝福に与る勝利者とされました。

ここに神の恵みのパラドックスが証しされています。

何度も申し上げますが…

私たちの天の父なる神は全能の力ある方です。しかし神はその力で私達を罪の滅びから救う方ではありません。

神は憐みによって私達を罪の滅びから救う方です。憐みによって罪の滅びから救うとは…
神がその独り子の命との引き換えに私たちをご自身のものとしてくださるということです。

ヤコブは神との格闘を通じて、今朝、皆さんに申し上げた神の恵みの不条理を体験しまし

た。その証しとして彼は、神から新しい名を授かりました。〈イスラエル〉神と戦って勝利したという意味の名です。何と恐れ多い名前でしょうか。しかし、この名はヤコブの人生のトランスフォーメーション、変容を約束するために神がヤコブに与えた祝の証しでもあります。

すなわち、神の恵みの不条理、パラドックスを知ったヤコブは、他者との争いに明け暮れる自己中の人生から～他者と平和に歩む神中心の人生〈イスラエル=神が支配する〉人生へと変えられるという！

みなさん、ヤコブのように神の恵みを体験したいと思いませんか。あなた中心の人生ではなく神中心の人生を歩みたいと思いませんか。

もしそう願うなら神は必ずあなたの求めに応じてくださいます。

何故なら、その願いは神ご自身の願いでもあるからです！

信仰とは神の願い、御心に応答することから始まります。みなさん、神を中心とした人生を歩ませてくださいと神の願いつつ今週も様々な困難を乗り越えさせていただきますよう！